

里地里山の地域と連携する活動作りのポイントとは？

まずはよく地域を調べること、地元の方の話によく耳を傾けること。ここから始まる。

□ (1)住民主体の地域計画作り

(ヨソモンの目線の違いを活用しつつ自分たちで行う地元学調査とヴィジョン作り)

□ (2)日常生活に立脚したプログラムとカリキュラム作り

□ (3)里の何気ないありふれた素材を力づける

(保全と伝承、再創造、再活用、そしてコミュニティビジネスへ)

□ (4)人材育成（担い手育成）

そこにすんでいるおじさん、おばさん、じいちゃん、ばあちゃんが元気に暮らすことが一番の人材育成。そこに若者は引き寄せられてくる（かもしれない）。

問題や課題は地域にあるが解決策も地域にある。

しかし、それよりも地域にある価値を受け継ぎ革新していくというスタンスが大切。

「それは、角川（が特殊）だから
できるんだよ」
という反応

本当にそうなのか？

森・里・川・海の多様な各地域集落で
実験的調査-活動を実践し確かめる必要

「NPO法人里の自然文化共育研究所」の設立
広域連携活動の展開

つまり、角川の里をモデルにしつつも、いろんなところで地元学を展開し、地元の方々が勝手に育つように、お手伝いしながら、交流と学習による、地域ごとの多様な地域づくり活動を構想していく、というプロジェクトを展開

「外部から応援隊があるなら、やってみてもいいかな、むしろこんなことやりたいかな」
という反応

森

里山保全活動
知恵・技術の伝承、
森林環境教育を展開











里

**鶴岡市松ヶ岡はじめとして
庄内最上地方12か所で
地元学活動を展開**







川～最上峡を中心とする川漁文化伝承と観察会・保全活動



地元の川漁師と生き物調べ



最上峡をカヌーで探検



水質調査



川面から最上峡の川と森林観察



海～海辺の集落の地元学と自然文化交流～

山村の高校生が海辺の森林ボランティア活動



海辺の地元学を
実施！



山村の住民と海辺の
住民が食文化交流会
を実施







戸沢・角川地区 × 酒田・飛島法木地区

住民同士が初交流

戸沢村角川地区で
採れた山菜を酒田
市飛島法木地区の
住民に紹介するな
どした交流会
＝酒田市飛島



戸沢村角川地区の住民が九、十の両日、酒田市飛島を訪れ、法木地区の住民と交流した。森の角川と海の飛島の住民同士が、互いの埋もれた「宝」を探し出し、地域活性化の足掛かりにしようとの試み。初の交流となった今回は、互いに郷土料理を出し合い、味わうとともに、意見を交換した。

角川地区の自然環境学習グループ「角川里の自然環境学校」(斎藤久一代表)では、活動を行っており、去年、住民が「里の先生」となり、ンバーが飛島に行つて県漁業地元の文化や伝統などを次世代に伝えている。二〇〇六年協同組合飛島支所女性部(斎藤栄子部長)と交流。その後、からは同学校の研究部が、今回の話がまとまった。

森と海の宝地域の力に

郷土料理出し合い、意見交換

交流活動には、同学校と、同学校研究部が昨年、設立した特定非営利活動法人(NPO法人)「里の自然文化共育研究所」(大山勇理事長)、同女性部の関係者約二十人が参加。法木会館で開かれた郷土料理交流会では、角川地区の住民がフキの煮物やミズのとたきなどの山菜料理を出したのに対し、飛島側はスルメイカの煮物やサザエのつぼ焼きなどを披露した。

また、飛島では間もなく、トビウオの焼き干し作りが本格化するが、調理過程で欠かせない炭が不足している。一方、角川地区はナラを用いた「日山白炭」の産地として有名。そこで、トビウオの焼き干し作りに日山白炭を利用してもらうきっかけにしよう、と、四十五分を提供した。

里の自然文化共育研究所の出川真也専務理事は「山と海が一緒になったときに発揮される力に可能性を感じた。事業化に向け、角川の山菜と飛島の魚を用いたレシピを開発してはどうかといったアイデアが出ていたと話していた。

2008年
6月13日
山形新聞
記事より

コミュニティビジネス広域連携ネットワーク

最上庄内エリア関係団体位置図

ー地域活動団体を介したツーリズム拡充と産品販売促進網構想ー

赤：地域活動団体
黄：中間支援NPO



活動の輪を広げてNPO法人 里の自然文化共育研究所の設立

広域連携・多主体連携、そして都市住民との協働へ 「森里川海都市をつなぐ里づくりネットワークプロジェクト」

里づくり活動をより広域に、より多くの
の人々との協働で進めていこう！
活動の広がりや深まりを目指して「里
の自然文化共育研究所」が活動を開始！

海の拠点(酒田市)
海の地元学
と食文化交流

川の拠点(最上峡)
森林再生と
川の体験活動

海辺の拠点(三瀬)
海辺の地元学と
自然体験・保全活動

山・里拠点(角川の里)
里地里山保全活動

しな織の里
伝統工芸品
と里山研修

都市部(山形市・仙台市)
青少年体験活動市民団体
との連携

地域住民と多主体連携による地域計画作り

- (1) 地元から学ぶことを通して、地域の意思決定は地域で
という基本スタンス
 - ・ 教える、指導する「教育」→共に学び育てる「共育」へ
- (2) 自律と自治
 - ・ 外部の目線の違いも活用しながら自分たちで調べる、自分たちで決める。外部の力も借りながら活動できる仕掛け
- (3) 地域NPO組織を育てることの重要性
 - 連携する地域パートナーが育つ環境づくり—
 - ・ 多様な主体の連携調整
 - ・ 市町村域・県域を超えた連携へ